

平成 26 年度 事前評価点検表（内部評価）

事業名	一般国道（旧）170号 歩道整備事業	
担当部署	都市整備部 交通道路室 道路環境課 交通安全施設グループ（連絡先 06-6944-9283）	
事業箇所	大東市中垣内	
目的	本路線は、大東市を南北に縦断する主要幹線道路であり、交通量も非常に多く、また近傍には中学校や高校、大学があり、通学経路として利用されているにも関わらず、歩道がなく交通安全上危険な状態である。このため、歩道の整備を行うことで歩行者等の安全と交通の利便性の向上を図ることを目的とする事業である。	
内容	歩道整備 延長：L=400m (現況) 幅員：W=6.0m 歩道なし (計画) 幅員：W=9.0m 片側歩道 W=2.5m	
事業費	全体事業費：約 4.2 億円 (内訳) 調査費等 約 0.5 億円 用地費 約 3.0 億円 工事費 約 0.7 億円	
	【事業費の積算根拠】 予備設計から数量を算出。事業費は積み上げにより算出。	【工事費の内訳】 歩道整備等 約 0.7 億円
事業費の変動要因	【今後の事業費変動要因の予測】 用地補償費の算定については、概算額で計上しており、今後、詳細な調査により確定することから、事業費が変動する可能性がある。	
維持管理費	5.0 百万円／年・k m	
関連事業	特になし	
上位計画等における位置付け	大阪府都市整備中期計画（案）(H24.3)	
優先度	本事業箇所は、歩行者、自転車利用者も多く路線バスのルートにもなっており、また事業について沿道自治会、住民の協力を得られることから優先的に整備をしていく必要がある。	
事業を巡る社会経済情勢等	○当該道路状況 中学、高校、大学が周辺に立地しているため、通学経路として歩行者、自転車の利用が多いが、歩道がなく、歩行者等にとって大変危険な状況である。 ○現況交通量（平成 22 年度 道路交通センサス） 自動車交通量 : 6,599 台／12h 歩行者交通量 : 656 人／日 自転車交通量 : 1,051 台／日 動力付き二輪車類 : 911 台／日 ○交通事故発生状況（当該箇所近傍） H22～H25（4ヶ年間） : 13 件	
地元の協力体制等	○地元市等から早期整備要望がなされている。 ○地元自治会、住民において歩道整備への協力に向けた合意形成が図られている。	

事業の投資効果 ＜費用便益分析＞ または ＜代替指標＞	交通安全事業における費用便益分析手法は確立されていない。
事業効果の 定性的分析 (安心・安全、活力、 快適性等の有効性)	【効果項目】 ＜安全・安心＞ ・歩車分離を図ることにより、歩行者・自転車等の安全を確保する。 ・周辺に中学、高校、大学があり、利用者の安全確保に寄与する。 ＜活力＞ ・誰もが安心して社会参加できる生活空間の形成（歩行者交通等の利便性向上） ＜快適性＞ ・歩道の整備による、歩行者等の通行利便性の向上 【受益者】 沿道住民、道路利用者
事業段階ごとの 進捗予定と効果	平成 27 年度：協議・設計 平成 28～29 年度：用地買収 平成 30～31 年度：用地買収、工事
完成予定年度	平成 31 年度
代替手法との 比較検討	歩行者等の安全を確保するためには、通行車両と歩行者等を物理的に分離できる歩道整備を行うことが最善策であり代替案はない。
自然環境等への 影響とその対策	周辺は市街地が形成されており、本事業において新たに自然環境に影響をあたえることはない。
その他特記事項	特になし
評価結果 (案)	<u>事業実施</u> ＜判断の理由＞ 本箇所は、近傍に中学校や高校、大学があり、通学経路として利用されているにも関わらず、歩道がなく、危険な状況となっている。このため、歩道整備を行うことにより、通学時をはじめ誰もが安全・安心・快適に通行できる歩行空間が確保できることから「事業実施」とする。

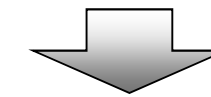
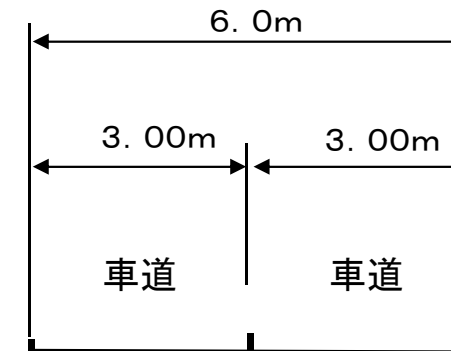
平成26年度 事前評価 (一般国道 (旧)170号(歩道整備))

事業箇所図

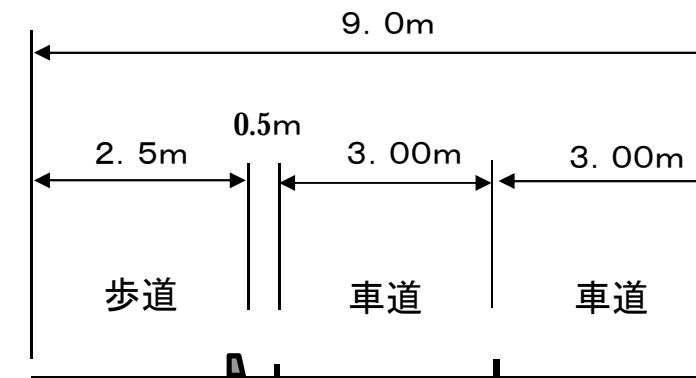


標準断面図

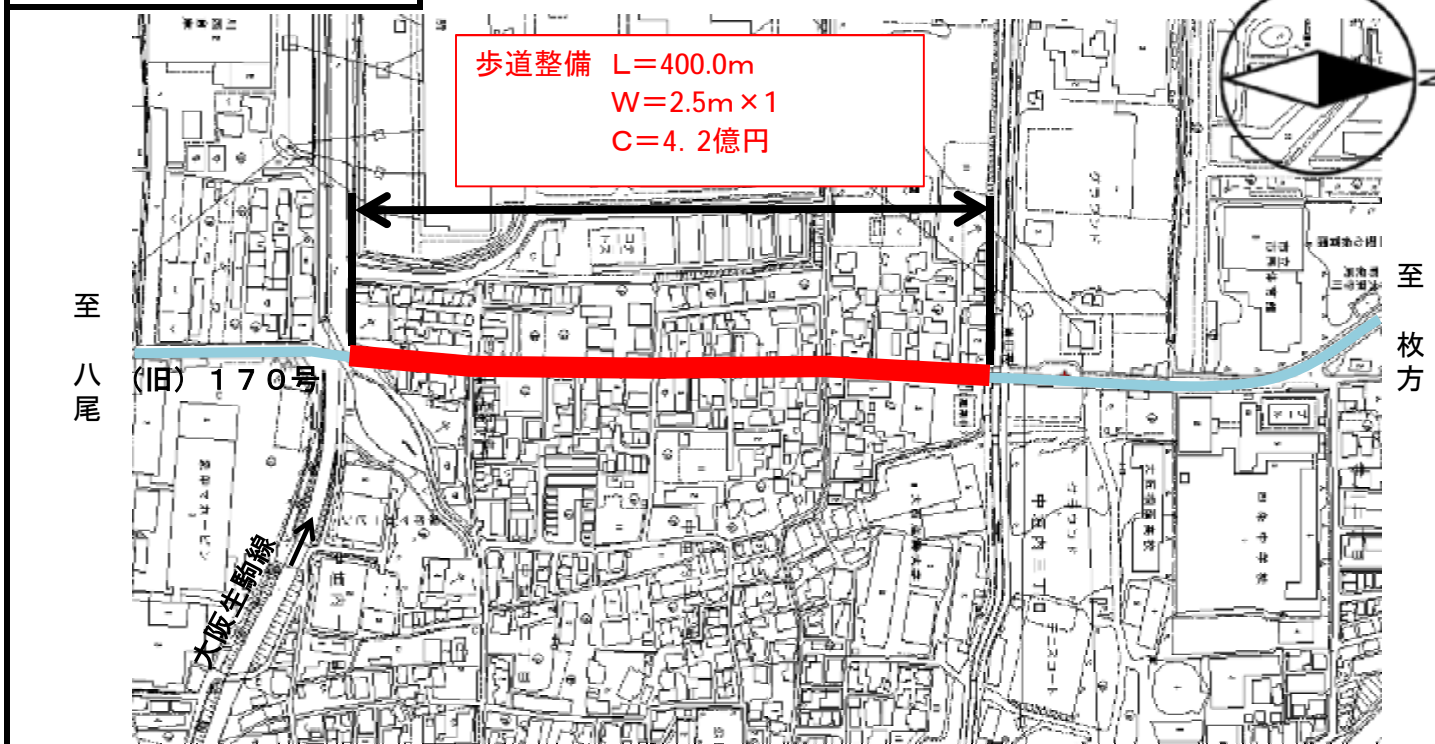
(整備前)



(整備後)



平面図



現況写真

①



②

